

## 北岡伸一政策研究大学院大学教授へのヒアリング（ポイント）

平成24年6月

### 1. 外交・安全保障関係シンクタンクの必要性

- ✓ 世界はその構造が大きく変化し、政策の微調整では乗り越えられない、柔軟かつ大胆な思考を必要とする事態がいつ起こってもおかしくない。
- ✓ 他方、政府及び官僚に対する世間の視線に極めて厳しいものがある中、政府が「言えることの領域」がどんどん小さくなり、公式のラインから出た発言が出来なくなっている。
- ✓ 外交・安全保障関係シンクタンクの役割は、自由な立場から発言し、提言することであり、その役割は増大する一方である。
- ✓ また、キャリアパスのためのシンクタンクの役割も重要。
- ✓ 大学院も共同研究等、そうした活動を一部行う余地はあるが、大学院の目的はあくまでも学術研究であり、テーマはその観点のみから決められるため、決められたテーマが国益に沿っているかどうかの保障はない。また、多くの大学は一つの専門に一人の教員しかいないので、視野の広い調査研究は出来ない。

### 2. 外交・安全保障関係シンクタンクの組織のあり方

- ✓ 外交・安全保障関係シンクタンクの果たすべき役割は、本来は国家の仕事である。それを政府から独立した立場で行わせるところにシンクタンクの意義がある。
- ✓ 従って、外交・安全保障関係シンクタンクは、一定の思想は掲げるべきであるが、政府のみならず企業等からも独立していることが担保されるべき。政党や企業など特定のスポンサーがいる場合、発想や発言の自由度も自ずと限られてくる。
- ✓ 他方、日本の現状を考えれば、そのような外交・安全保障関係シンクタンクが完全な独立採算で充実かつ安定した活動を行うことは不可能。民間の仕事として採算がとれない。民間資金をもっと集めるべし、といった表面的議論も聞かれるが、日本特有の事情を踏まえれば、国がそうした活動を支えていくことが不可欠である。その延長線上で考えれば、政府として外交・安全保障関係シンクタンクを保有するというのも選択肢となろう。一方、その際も、トップは学者が占める等、政府は独立性の確保に最大限意を用いるべきである。